

30代 86日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

妻の手が新生児の授乳にとられるため、長子（新生児の兄）の世話を主に夫がした。夫が日中の家事をすることで妻の負担軽減に努めた。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

帰宅を早められる時は帰宅を早め、長子の寝支度をする。食器の洗浄等、日中に終わりきらなかった家事をする。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

長子の幼稚園や習い事の送迎、家での世話、遊び相手になってくれたことで自身（妻）が新生児の世話と産後の体力回復に専念できた。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

育児休業取得が半年弱ほど前に決まっていたので、同職の上司・先輩と仕事内容（途中の）を共有し引継ぎを行った。

2. 評価・反省

事前に全体的な仕事量が調整できたことは良点だったが、途中になってしまった仕事量の多い案件もあり先輩に負担をかけたことが反省点だった。

③自由記述

一日一日急激に変化する赤ちゃんの成長を間近で感じたいと思い、育児休業の取得をしました。出産予定日の約半年ほど前に会社の上長に相談、会社側も快く受け入れてくれました。半年と余裕をもって育児休業取得を伝えたことで、上司や同僚も私が担当できる範囲での仕事を主に回してくれ、育児休業取得直前には各仕事が概ね片が付いた状態にできました。

人数が多い会社ではないので人ひとりが抜けた穴は小さくなく、諸先輩方には迷惑をかけた部分もありましたが、育児休業取得を否定されることなく応援してもらえました。

子どもの生活ペースに合わせ四六時中相手をするの大変さを改めて感じました。

私は主に長子の世話係といったポジションでしたが、自身である程度コントロールできる仕事とは違い、4歳の男の子を育てるために必要な労力は想像以上でした。明確な意思疎通がとれない新生児の世話も楽なものではなく、女の子ということもあり全てが未知の体験でした。

ただ、それ以上に家族とともに毎日を過ごすことができた時間はかけがえのないもので、ひたすらに妻や子どもたちと向き合っていた瞬間の連続は、幸せなものでした。仕事もせず家族とずっと過ごしていたくらいでした。

育児休業取得を検討している方がいたら、ぜひ取得することをお勧めします。第一の理由は、新生児の成長の早さです。約3ヶ月間の育児休業取得中で子どもは約倍のサイズになりました。人生に一度しかないその成長期を間近でみられることは、かけがえのない経験だと思います。第二に家族の存在です。育児休業は新生児のためだけにある制度ではないと思います。生まれてきてくれた赤ちゃんはもちろんですが、妻と長子と育児休業を理由にたくさんの時間を過ごすことができました。長時間、一緒にいることで衝突もありま

したが（特に長子の男の子のわがママをたくさん叱りました）、その分お互いを理解し合える時間も増え、家族で過ごせる時間がより楽しいものになりました。育児休業は、素晴らしい制度だと思います。それと同時に当たり前の制度だと思います。

育児をしたいという真っ当な理由でなくとも、生まれてきてくれる子どもの成長をそばで見たいという想いがあれば長い人生の数か月間、それだけに専念する時間があってもいいのではないかと思います。その想いに素直に耳を傾け行動すれば育児休業という制度だけでなく周囲の人達が、そのかけがいのない時間をつくることに協力してくれるのではないかと思います。